

一人の従順によって

ローマの信徒への手紙 5 : 19



司祭 ヨハネ 井田 泉

2014 年 6 月 22 日

聖霊降臨後第 2 主日

西大和聖ペテロ教会にて

**「一人の人の不従順によって多くの人が罪人とされたように、
一人の従順によって多くの人が正しい者とされる。」 ローマ 5:19**

前の十字架を見つめてみましょう。

主イエスの姿を示す十字架。それには三つの意味があります。

第一に、十字架は主イエスがわたしたちを招いておられる姿です。両手を上げて主イエスはわたしたちを招いておられます。

第二に、十字架は、主イエスがしっかり立ってわたしたちを支えてくださる姿です。わたしたちがどうであろうと、イエスはしっかりと立っておられます。それは、わたしたちを支えるためです。

第三に、十字架は、主イエスがわたしたちのことを引き受けてくださる姿です。わたしたちの重荷、わたしたちの病、わたしたちの罪や負い目の一切を引き受けて、主イエスは立っておられます。

今日の使徒書は、十字架に死なれたイエスがわたしたちにとって何であるかを語っています。

「一人の不従順によって多くの人が罪人とされた」。

この一人の人とは、アダムです。アダムは最初に神によって造られた人です。その鼻に、神の命の息を吹き込まれて生きる

者となった。エデンの園に住んでそこを守る者となった。もう一人の人、エバを神さまから与えられ、仲良く幸せに暮らしていました。

しかし「一人の不従順」。アダムは神に対して大きな過ちを犯しました。これだけは取って食べてはいけないと禁じられていた善悪の知識の木から取って食べた。ここから人間の不幸が始まりました。

アダムに起こった不幸とは何でしょうか。第一の不幸は、神を避けるようになったということです。

「その日、風の吹くころ、主なる神が園の中を歩く音が聞こえてきた。アダムと女が、主なる神の顔を避けて、園の木の間に隠れると、主なる神はアダムを呼ばれた。

『どこにいるのか。』」創世記 3:8-9

自分の命の源は神にあるのに、神なしに生きることはできないのに、しかも神を避ける。身を隠す。負い目を感じるからです。

けれども現代人の不幸はもうひとつあるかもしれません。それは神を避けることも知らない、ということです。畏れるべき方を知らないから、負い目や罪、とがの感覚もはっきりしないかもしれません。

アダムの第二の不幸は、責任を人にかぶせるようになったことです。「なぜ取って食べるなと命じた木から食べたのか」と神から問われたとき、アダムはこう答えました。

「あなたがわたしと一緒にいるようにしてくださったあの女が、木から取って与えたので、食べました。」創世記 3:12

あの女のせいだ。あの女が悪い。あの女をわたしと一緒にしてくれた神さまにも責任がある、というような言い方です。

責任回避。責任転嫁。人を非難することで自分を守ろうとする。

実はこの創世記の物語を書いた著者は、これを単に昔の先祖の話として書いたのではなく、自分たちの姿だと感じながら書いたのです。この物語は、わたしたちの姿を照らし出します。

そして、これはアダムだけではない、自分のことだ、またすべての人に通じる人間の悲しい現実だと痛切に感じて、どうしたらこの宿命的な現実から救われるのか、と、もがいたのが新約聖書のパウロです。

「一人の不従順によって多くの人が罪人とされた」。

わたしたちは皆、アダムと同じく神に対して不従順であり、罪人であることから逃れることができない。人類の代表はあの

アダムであり、一人の人、アダムのあの姿は、多くの人、すべての人類の現実になってしまっている。言わばアダム的な巨大な影響力の中にわたしたちは皆、閉じ込められてしまっていて、身動きできない。これがパウロの嘆きです。

しかしそれが結論ではありません。パウロが言いたいのはその次です。

**「一人の人の不従順によって多くの人が罪人とされたように、
一人の従順によって多くの人が正しい者とされる。」**

人が皆、神を避け、自分の責任を引き受けずにそれを人に転嫁するような神への不従順、不真実を重ねる悲しいこの現実の中で、ただ一人イエス・キリストが神への従順を貫いて生き、貫いて死なれた。この方一人が、多くの人の投げ出した責任を引き受けられた。わたしたちの不従順、わたしたちの不真実の無限の積み重なりをご自分が代わって引き受けて生まれ、それを引き受けて生き、それを引き受けて死なれた。

ほっておけば沈み滅びていくわたしたちを、イエスが抱きかかえてくださった。わたしたちが滅びないために、自分の身を挺してわたしたちを守ってくださった。

イエス・キリストの生涯と死において、この世界に、神に至るまっすぐの1本の道が開かれました。

これがイエス・キリストの生涯と十字架の意味です。

わたしたちがたとえどんなに不従順で不真実であったとしても救われる。ただ一人、イエス・キリストがわたしたちのためにおられる。人類の代表はアダムではなく、イエス・キリストだ。イエス・キリストがアダムに縛られているわたしたちを引きはがし、解き放って、わたしたちをキリストのもとに集めてしっかりと保ってくださる。

「一人の従順によって多くの人が正しい者とされる。」

イエス・キリストただお一人の神への従順、真実のゆえに、わたしたちがどんなに不従順でどんなに不真実であったとしても、神に愛され受け入れられる。イエス・キリストのゆえに、わたしは生きることを許され、生きることを肯定され、生きることを可能にされたのです。

このイエス・キリストに触れたとき、わたしたちは責任を引き受けてまっすぐに生きて行くことを学びます。どうしてもない自分を知ってもがきつつ、イエスに向かって声を上げる。もはや古い自分の中に居直ることをやめて、イエスの招きに答えて歩もうとするのです。

最初に十字架に示された主イエスの姿のことをお話ししました。

十字架は、主イエスがわたしたちを招いておられる姿。十字

架は、主イエスがしっかり立ってわたしたちを支えてくださる姿。十字架は、主イエスがわたしたちのことを引き受けてくださる姿。

わたしたちは、イエス・キリストによって招かれ、支えられ、赦され、すべてを引き受けていただきました。それを知ったわたしたちは、新しくはっきりと、イエスさまの弟子として歩みます。

現実には多くの不安、心配、葛藤があります。世の中には悪の大きな力が働いています。しかし今日の福音書でイエスさまは「恐れるな」と言われました。

「あなたがたの髪の毛までも一本残らず数えられている。だから、恐れるな。」マタイ 10:30-31

天には、わたしたちの髪の毛までも1本残らず知っていてくださる父がおられます。十字架においてわたしたちの苦しみと罪と死を引き受けてくださったイエス・キリストがおられます。

「だから、恐れるな。」

祈ります。

神さま、十字架を仰がせてください。十字架のうちに、わたしたちのために、わたしたちに代わって生きて死なれた救い主の愛を見出させてください。アーメン